

最先端の毛髪移植 advance FUT

長井 正寿

Masahisa Nagai, M.D.

ルネッサンスクリニック

Renaissance Clinic

■抄録

脱毛症の治療において、毛髪移植 (FUT: follicular unit transplantation) について解説を行う。

プロペシア等の処方での脱毛を改善する内科的治療は、比較的受け入れやすい。しかし高齢や薄毛の進行度が高いなどの要因のために、効果が芳しくない場合や、効果が見られたとしても患者の満足感が得られない場合は、外科的治療法が選択肢となりうる。

ここで「うすげの概念」について振り返ってみると、単位面積あたりの毛髪の密度や、毛幹の径（髪の太さ）で規定されているわけではなく、「ただ単に薄く見えるか、見えないか？」といった極めて主観的なことであることに気づく。

これが他の疾患とは決定的に違うところであり、又それであるが故に治療が特殊で難しい。これら薄毛患者を一人でも多く納得させ、あるいは満足させるため、自毛植毛術（毛髪移植）の精度を上げる努力をしてきた。

その結果 AGA 以外の、交通事故後や外科的手術後の瘢痕性脱毛や、女性の男性型脱毛に加えて、「眉毛や、まつげ、髭の作成」など、よりシビアな症例にも対応出来るようになった。

現在、英語では hair transplantation よりも hair restoration と表現されるようになった事からも、ただ毛を移植するといういわば初期目標を超えて、より自然に仕上げるという次の段階の結果が求められるようになったことが、大変に重要だと感じている。同時にドナー採取部の採取跡をいかに目立たなく出来るかで、患者の QOL も向上させることが出来る。

今回我々が行っている実際の手技の詳細として、ドナー部位では ①ドナー部位の選択、②ドナーデザインの決定、③毛根を犠牲にしない長井式 2 段階切開法、④痕性脱毛を最小限に抑える長井式 2 段階縫合法について、レシピエント部位では⑤移植部位の決定、⑥正確な移植密度達成のために 1 cm² マスの作成、⑦高い生着率を達成する 0.1 mm 刻みの長井式線状スリットについての解説に加えて、十分な数のドナー毛を期待出来ないため、オペ適応が難しいとされた AGA クラス 5 以上の症例において、一つの選択肢となりえる体毛移植の可能性について、動画や画像を使用して説明を行う。